

# よりよい生き方を実践する力を育む道德教育の推進事業 完了報告書 (青森県立八戸高等学校)

## 1 道德教育に関する取組状況の概要

本校は、創立から132年を迎える地域の中心校である。「良き伝統・校風のもと、高い志をもち、知・徳・体の調和のとれた心身ともに逞しい人間の育成」、「主体的・対話的で深い学びを踏まえ、学業や部活動等において自ら考え行動し、協働して探究する力の育成」を教育の柱として、高い志をもった生徒が集う学校として教育活動を展開している。

本校の道德教育は、綱領・学校目標を基盤に「道德教育の全体計画」(別紙)に沿って実施されている。生徒は高い学力と知識欲をもち、進路目標を明確に設定し、将来のリーダーとしての資質を身につけるため、勉学や部活動に積極的に取り組み、その結果、学校全体として大きな成果を上げている。一方で、困難を克服する精神力や規則正しい生活習慣、集団の一員としての自覚を高めることは、日常的に意識して取り組むべき課題である。特に、生命尊重の精神(若者の自殺)、いじめなどの人間関係のトラブル、情報モラルの低下に起因する問題は、本校においても喫緊の課題となっているところである。

本事業への参画は、本校の道德教育推進教師が茨城県つくば市の独立行政法人教職員支援機構で開催された「令和6年度道德教育推進研修」に参加したことが契機である。研修成果を勤務校で発揮するため、本事業を活用し、高等学校学習指導要領総則に示される「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共により良く生きるための基盤となる道德性を養うこと」の目標のもと、本校の生徒・教職員が教育活動のあらゆる場面で道德的心情をもち、生活できるよう、本校の道德教育をさらに推進したいと考えた。

本事業では、道德教育推進教師を中心に、全体計画に沿って道德教育を推進し、生徒・教職員の道德性の向上を検証した。また、生徒が小中学校で学んだ道德を振り返り、その重要性を確認し、学校生活や社会生活でよりよく生きるための道德性を養う方策を研究した。高等学校は、小中学校とは違って特別の科目としての扱いがないため、道德に特化して教育活動を展開していくことが困難であることから、道德教育推進のポイントとして、学校生活全般のあらゆる場面で道德教育に関連するエッセンスを「チョイ足し」しながら教育活動を展開していくことが大事であることを伝え、以下の展開方法を提示し、活動を展開した。

### ◎ 道德教育の展開方法

道德教育推進の具体的方策を知り、本校の教育活動を通じて道德教育を推進する。

- (1) 小中学校における道德教育のあり方について理解する。
- (2) 高等学校における道德教育のあり方について理解する。本校の道德目標の全体計画を基に、道德教育を推進する。具体的方策は以下のとおり。
  - ① 学校生活全般との関連付けを行う
    - ・ 本校の綱領・校風から育成を目指す具体的な生徒の姿を設定する
  - ② 各教科・科目、特別活動との関連付けを行う
  - ③ 教育課程外の活動との関連付けを行う
    - ・ 部活動やボランティア活動を通じて道德性を高める

## 2 実施した研究内容

### (1) 教員間における道徳教育の理解について

令和6年度道徳教育推進研修内の講義で、ある高等学校の道徳教育への取り組みに関するアンケート結果が紹介され、「あまり取り組んでいない」「何が道徳教育かわからない」といった回答が多いことを知った。今年度、本事業に参画するにあたり、本校教員が道徳教育に対してどのような考えを持っているかを把握するため、事業開始時と終了時にアンケートを実施し、本校の実態を確認した。また、事業参画にあたり、道徳教育推進教師による研修内容の伝達を行う機会を設けた。本校の道徳教育の全体計画の確認、上記1で示した「道徳教育の展開方法」について説明し、生徒の道徳性が深まるよう、各学年・各教科・特別活動等における取り組みに対して、道徳的要素を加えた指導を心がけるよう依頼した。

### (2) 生徒の道徳教育への参画について

本事業の実施にあたり、全校集会にて事業の趣旨を説明し、道徳教育の重要性について意識づける機会を設けた。また、教員に対して説明した「道徳教育の展開方法」を生徒にも伝えるとともに、小中学校で学んだ道徳教育の振り返りができる「道徳教育の内容項目」をまとめたレジュメを配布し、意識の高揚を図った。併せて、教員同様、事業開始時及び終了時にアンケート調査を実施し、事前事後の取組状況を確認した。

## 3 実施経過とその体制

月	取組の内容	備考
4月	「外部講師による講演会」(特別活動による取り組み) ※在日コリアン三世のちゃんへん(金昌幸)氏の講演会	
5月	「高校総体壮行式」(特別活動による取り組み)	
6月	・道徳教育に対する意識調査の実施(アンケート) 「校内マラソン大会」(特別活動による取り組み)	
7月	・校内研修の実施 「八高祭」(特別活動による取り組み) ※スポーツ大会、文化祭、運動会、ファイヤーストーム	
8月		
9月	「文化講演会」(特別活動による取り組み) ※本校OBによる基調講演	
10月	「1年地域巡検」(特別活動による取り組み) 「3年遠足」(特別活動による取り組み)	
11月	「2年修学旅行」(特別活動による取り組み)	
12月	・道徳教育を振り返るアンケートの実施	
1月	「道徳教育パワーアップ協議会」にて実践事例発表	
2月	・次年度研究についての検討	

#### 4 取組の成果と課題

##### (1) 調査から見られる成果

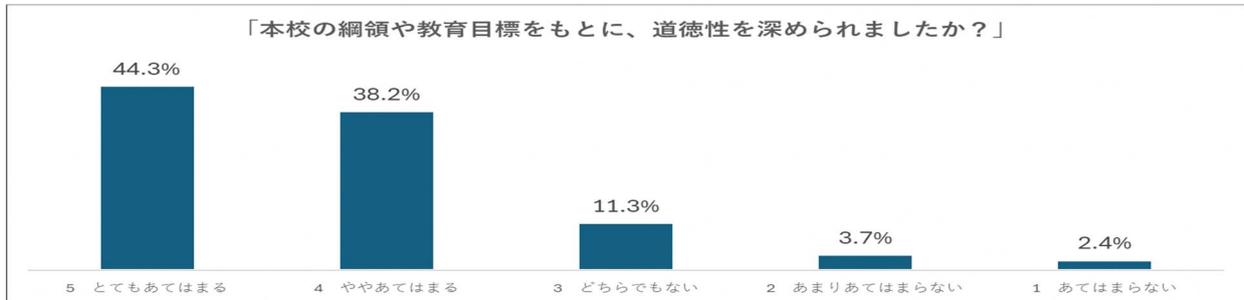
調査名	道徳教育に対する意識調査	
調査項目	道徳教育への取り組み状況について	
回答項目	1 本校の道徳教育の重点目標を軸に、教育活動を展開している 2 教科指導の中で、道徳性を養うことを意識した指導をしている 3 特別活動の中で、道徳性を養うことを意識した指導をしている 4 教育課程以外（部活動等）で、道徳性を養うことを意識した指導をしている	
調査対象	種別	1. 児童・生徒 (2) 教職員 3. 保護者 4. その他 ( ) ※該当を囲んでください。その他の場合は、( )に記載。
	学年等	<b>教職員（管理職、事務職員は除く）</b> ※全校又は抽出等についても併せて記載。
調査時期	第1回（事業開始前）	第2回（事業終了時）
	令和7年6月	令和7年12月
回答結果 割合等	回答1 65.3% 回答2 69.2% 回答3 76.9% 回答4 84.6% (小数第一位まで)	回答1 70.0% 回答2 66.7% 回答3 70.0% 回答4 76.7% (小数第一位まで)
	結果の考察 事業開始前と終了時の結果は、ほぼ変わらない数値となった。「どちらともいえない」との回答が多く、具体的な方策を検討する必要がある。	

調査名	道徳教育に対する意識調査	
調査項目	道徳教育への取り組み状況について	
回答項目	1 中学校までの「特別の教科道徳」で学んだことを生かして生活している 2 自己の生活や人間関係の課題を見だし、解決に向けて努力している 3 多様な他者と協働するための、自身の行動の仕方を考えている 4 よりよい学校生活を送るために、主体的に学校生活に参加している	
調査対象	種別	(1) 児童・生徒 2. 教職員 3. 保護者 4. その他 ( ) ※該当を囲んでください。その他の場合は、( )に記載。
	学年等	<b>全校生徒</b> ※全校又は抽出等についても併せて記載。
調査時期	第1回（事業開始前）	第2回（事業終了時）
	令和7年6月	令和7年12月
回答結果 割合等	回答1 74.2% 回答2 90.4% 回答3 93.1% 回答4 87.1% (小数第一位まで)	回答1 76.6% 回答2 92.2% 回答3 93.4% 回答4 86.9% (小数第一位まで)
	結果の考察 事業開始前と終了時の結果は、ほぼ変わりなくかつ高い数値を示した。生徒の道徳に対する意識の高さがうかがえた。	

## (2) 成果の具体的検証

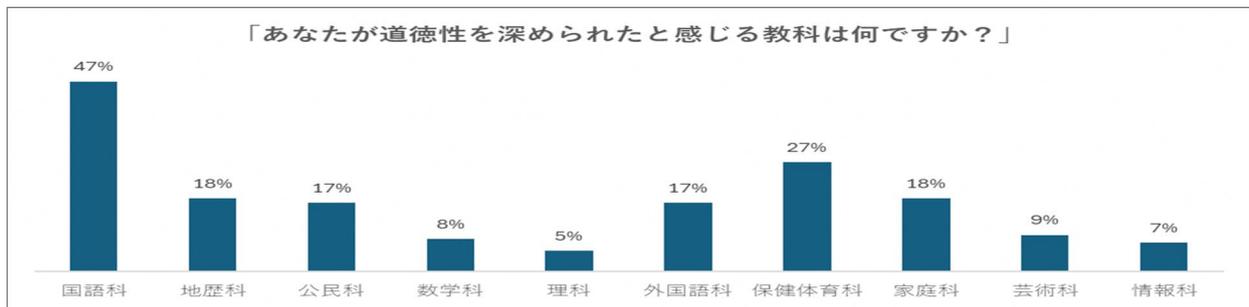
事業終了時に、生徒から(1)「道徳教育に対する意識調査」に加え、具体的な方策の取り組みに対するアンケート調査を実施し、道徳教育推進のポイントに沿った取り組みに対する生徒の意識を把握した。

### ① 綱領・校風から育成を目指す具体的な生徒の姿を設定する



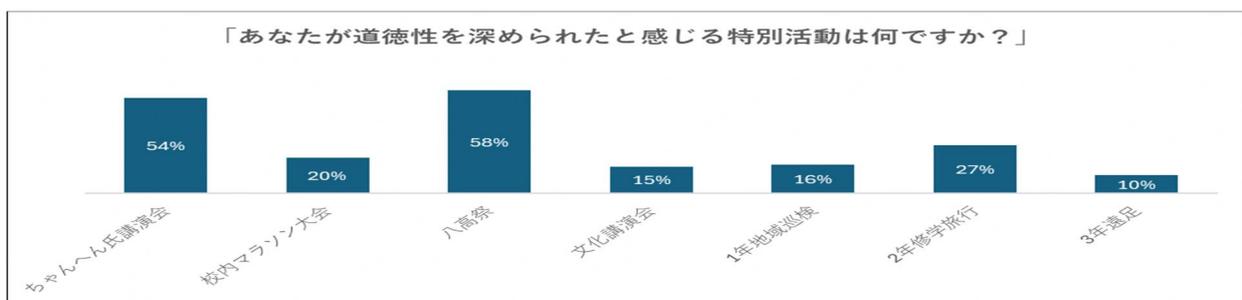
アンケート結果から、道徳目標に示す綱領・校風への理解が浸透しており、強く意識しながら生活できている生徒が多いことが確認された。本校では、新入生に対して「入学の手引き」に綱領・校風の説明を掲載し、早い段階から帰属意識を持たせている。入学後も全校集会での校長訓示や学年集会での説示において引用されるなど、綱領・校風が生徒の意識に定着している。また、本校教員はOBが多く、綱領・校風への思い入れが生徒に伝わっていると考えられる。

### ② 各教科・科目との関連付けを行う



アンケートは複数回答可で実施した。国語科が最も高い数値を示し、次いで保健体育科、家庭科、地歴公民科、外国語科の順となった。いずれの教科も自己理解や他者理解、心身の健康、男女共同参画、国際社会への対応、倫理観、文化理解など、生徒の道徳性を深め、豊かな生活を育むための目標を掲げており、結果から生徒がその意義を理解していることが確認された。

### ③ 特別活動との関連付けを行う



今年度実施された特別活動のうち、道徳性がより深まると思われた活動についてアンケート調査を行った。以下はその一例である。

### ● ちゃんへん. (金 昌幸) 氏による特別講演会

この講演会は、校長がちゃんへん. 氏の著書「ぼくは挑戦人」を読み、感銘を受け氏に直接講演を依頼し行われた。在日朝鮮人三世である氏が幼少期のいじめ体験や渡米時の国籍問題、ジャグリングとの出会い、プロとしての挑戦について語った。講演では、朝鮮半島における南北問題や在日朝鮮人の実態について、氏が受けたいじめの実態とその体験を乗り越えた過程や夢を叶える努力が紹介された。また、ワールドカップで優勝する腕前のジャグリングも披露し、大変盛り上がる講演会となった。道徳教育を推進するうえで模範的な取り組みであったと考えられる。



### ● 八高祭 (スポーツ大会・文化祭・運動会・ファイヤーストーム)

生徒会主催の一大イベントであり、各軍・クラス対抗の活動を通じて協働性や意思決定力を養う機会となった。文化祭や運動会では、近隣の幼稚園と連携して、園児が作成した七夕飾りの展示や運動会で幼児レースを企画・運営するなど、地域との交流も含め、多様な他者と協働する力を育む取り組みとしても有意義であった。今年度は、期間中に硬式野球部の甲子園予選が開催され、地元球場にて試合が行われたため、急遽日程変更し、全校一体となって応援を試みる機会にも恵まれた。



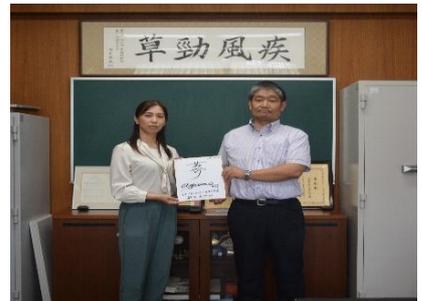
### ● 校内マラソン大会

本校の伝統行事として6月に実施している。保健体育の授業とタイアップし、生徒は大会での目標を設定し、練習を積み重ねて大会に臨む。各教科・科目との関連付けにおいて、アンケートで保健体育科を推す割合の高さは、この行事の取り組みの影響が大きいと考えられる。大会を通じて、「自己との闘い」を通じて道徳的価値観を見いだす機会となり、近年は欠席者が減少するなど意識の高まりが見られる。

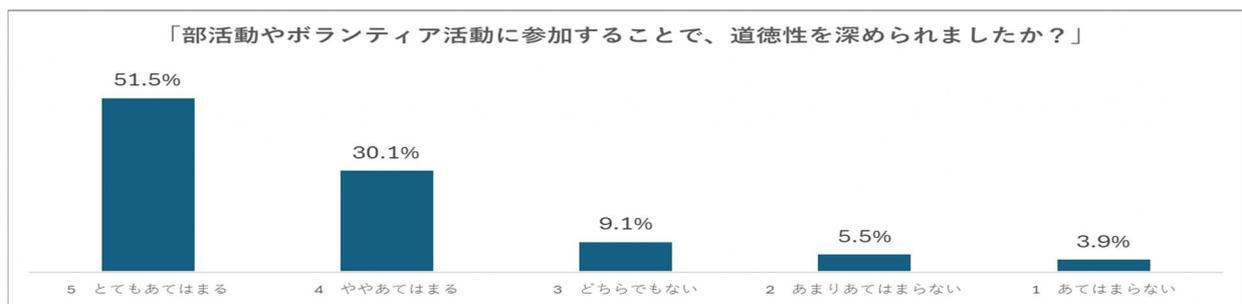


## ● 文化講演会

本校では、同窓会が9月に開催され、卒業してから30年経つ48歳になる卒業生が幹事を務める仕組みとなっている。幹事の中から、卒業後に著名な活躍をされている方が、同窓会の前日に生徒に向けて講演を行うことになっており、OBによる講演を通じて、生徒がキャリア形成や生き方を考える機会としている。今年度は女子アイスホッケー日本代表として長野オリンピックに出場した鈴木あゆみ氏が「女子アイスホッケー日本代表に学ぶ成長するチームと自分の作り方」の演題のもと講演し、組織の成長や自己の努力について語った。感想文には「自身の目標達成の糧にしたい」などの前向きな内容を書く生徒が多く、道徳性を高める良い機会となった。



## ④ 教育課程外の活動との関連付けを行う



本校は教育目標に「文武両道」を掲げ、学業と課外活動の両立を推奨している。運動系21部・文化系15部が組織され、加入率は高く、兼部しながら活動する生徒も多い。今年度は、運動系では弓道・山岳が、文化系では書道・美術・自然科学・囲碁将棋が全国レベルの大会や発表会に参加するなど、数多くの部活動が各種大会等において活躍した。課外活動を通じて道徳性を深める効果が確認された。教員アンケートでも、教育課程外での指導において道徳性を意識していることが示され、取り組みの有効性が認められる。



## (3) 今後の課題

本事業を通じて、本校の道徳教育の方向性を確認する良い機会となった。小中学校での道徳教育が高等学校生活に活かされていることも再認識した。この取り組みを通して、本校における道徳教育推進における課題は下記のとおりと推察される。

①生徒の道徳性を定着させるための継続的な取り組み

生徒の道徳に対する意識は総じて高いことがわかったが、実際の行動や生活習慣への反映が課題となると考えられる。様々な場面で生徒が自己の生き方を考える機会を増やし、振り返りを定期的に行えるよう工夫が必要である。

②生命尊重・情報モラル・人間関係トラブルへの対応

本校でも、いじめや情報モラル低下など喫緊の課題が挙げられている。今年度4月に実施した「ちゃんへん.氏による講演会」のような、これらのテーマを扱う教育活動を体系的に組み込む必要がある。

③教員の道徳教育への理解と意識の向上

アンケート結果から、教員の意識は「どちらともいえない」が多く、事業前後で大きな変化が見られなかった。道徳教育の意義や具体的な指導方法をさらに浸透させる必要がある。

④道徳教育を学校生活全般に自然に組み込む仕組みづくり

高等学校では「特別の教科道徳」がないため、授業や特別活動に「チョイ足し」する工夫が重要として展開し、現状でも教育効果は上がったと感じるが、各教科や活動で道徳的価値を意識できる指導案や教材を開発する必要がある。

⑤成果の見える化と評価方法の改善

アンケート結果では数値の変化が少なく、効果測定が難しいため、定性的な評価（生徒の感想、行動変容）と定量的な評価を組み合わせた仕組みづくりをしていくことで、成果を確認していくことが必要である。

今後は、課題として挙げられた項目について工夫・研究を重ね、小中学校で培った道徳性を高等学校でさらに向上させることを目標に教育活動を展開していきたい。